



秋の紅葉をめぐる旅。北海道大学はイチョウ並木(右ページ)のほか、ポプラ並木があり、札幌市民の散策に人気。空知地方にも芦別市の三段滝、三笠市の幾春別川など、紅葉スポットがある。(撮影/右ページ:中村健太 左ページ:保刈徹也)







1. 離れ棟の部屋は全5室あり、それぞれ趣が異なる。  
2. 離れには露天風呂がついており、心ゆくまで湯あみを楽しめる。



3. 全国から取り寄せる食材から、地元の食材まで山海の珍味を盛りつけた先付。秋には日本一早いキノコが並ぶことも。  
4. メニューの一例、あわびと賀茂茄子の冷菜、ゴボウの唐揚げをのせて。  
5. メニューの一例、美瑛町でも希少な「びえい牛」のステーキ、近郊から取り寄せるインカのめざめ、ブロッコリーを添えて。



もり りよてい  
**森の旅亭 びえい**



〒上川郡美瑛町白金10522-1  
☎0166-68-1500 図JR美瑛駅より車で約25分(送迎可)  
図チェックイン/チェックアウト 15:00/11:00  
【日帰り温泉】11:00~14:00 ※月曜休(祝日の場合翌日) 図大人800円、小学生400円、幼児200円  
【泉質】ナトリウム・マグネシウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物泉  
図1泊2食付・2名1室利用1人22,000円~、離れ棟35,200円~(消費税・サービス料込、入湯税別150円)  
図17室 図主なもののOK 図回(無料・17台) 図https://www.biei-hotel.com/

がある。保温性が高く、体がほかほかして湯冷めしないという。部屋からは白樺、エゾマツ、トドマツなど十勝岳連峰の自然林が見渡せ、秋ならではの景観も楽しみ。旭川家具をゆったり配した客室で、心ゆくまで過ごしてみたい。



**大雪山系**

**森の旅亭 びえい**

びえい白金温泉 MAP▶P085 01

「森の旅亭びえい」の離れをつなぐ回廊。かけ流しの温泉水が流れる水路があり、水音がやさしく響く。

**POINT**  
山の景に溶け込む北海道らしい数寄屋造りの低層の宿。窓いっぱいには美林が広がります。 小野寺淳子



大浴場は日帰り湯にも対応している。

ホスピタリティを大切に、食事と温泉でもてなす宿。  
美瑛町の市街地から白樺街道を抜けていくと、プラチナのように貴重といわれた白金温泉がある。その中の一軒「森の旅亭びえい」は、創業13年目と比較的新しいが、リピーターが絶えない人気の宿だ。「お客様に喜んでほしい」という、スタッフたちの意識が高いからでしょう。ここでは何よりホスピタリティを大切にしています。ホスピタリティ造りの瀟洒な建物には、よく見ると手づくりの小さな人形、折り紙などがさりげなく飾られている。客室にもスタッフ手製のガイドブックが置かれていて、客室での滞在だけでなく、外出の楽しみ方も提案してくれる。  
夕食と朝食は、食事処「森の坊」で。道産豚コース、四季形膳コース、冬限定のお祝い膳コース、と夕食には3種の会席料理を用意。いずれも、全国からの厳選食材や地域の旬の食材を、料理長が確かな腕で仕上げたものばかり。びえい米、びえい牛といった、地元ならではの食材にも出会える。日本一紅葉が早いという大雪山系では、キノコも日本一早く登場することも。旭川「高砂酒造」の日本酒「からのワイン」やカクテルなど、じっくり味わってみたい。「源泉かけ流しの湯は「杖忘れの湯」と呼ばれており、杖をついてきた人も、杖を忘れて帰ってしまうという逸話





「糠平温泉 中村屋」には説明書きが多い。食事に使用する生産者、本日の果実酒、宿泊者のレンタルコーナー「エゾリスの穴」……売店には地域の生産者の野菜を販売、レシピも紹介している。連泊すると様々なサービスが受けられるので、糠平湖(右ページ写真)など散策しながら滞在してみよう。(撮影/辻 博希)



# 道東、 名湯を 満喫する。







北海道で美味しいと思った食材を、裕美子さんが調理してくれる。6月から10月ごろまでは花咲ガニのシーズン。ホタテは蒸すか焼くなど、その食材のシンプルで美味しい食べ方を提案してくれる。



谷野宮さん夫妻と交流のある愛知県の陶彫家、市田志保さんによる作品も常設展示、販売している。



ほくてん わ や じゅうる  
**北天の我が家 住留**



〒斜里郡清里町緑町71-45  
☎0152-26-7860  
☒女満別空港より車で約1時間  
☒チェックイン/チェックアウト 15:00/10:00  
☒【泉質】ナトリウム-塩化物-硫酸塩泉  
☒1泊2食付・2名1室利用1人24,000円～  
(消費税別、サービス料・入湯税込)  
☒1室 ☒不可 ☒あり ☒http://www.ju-ru.com/

くれることも。すべては自宅にいるように、気ままに、気楽に。素朴な手づくりのおもてなしを、第二の我が家としてみてほしい。

ゆったりとした距離のインテリアは、まさに我が家のリビングをイメージする空間となっている。



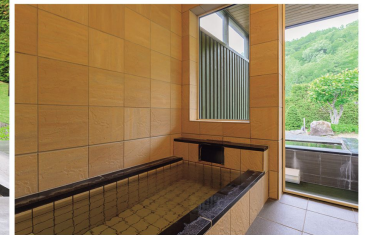
オホーツク

北天の我が家 住留

清里温泉

MAP▶P084 31

源泉かけ流しの温泉は、内風呂と露天風呂の2カ所。好きな時間にいつでも入れるのがいい。



いつか移住したいと、  
終の棲家が一軒宿に。

斜里町の西側、ふもとにたたずむ小さな一軒家。こは一日一組限定の宿で、滞在中いつでも温泉がひとりじめでできるという贅沢な隠れ家だ。宿の主は愛知県で建築業を営む谷野宮真さん。先代の父親が亡くなってから初めて、父の出身である北海道を旅するように。すっかり北海道が気に入った。妻の裕美子さんとともに父が生まれた小樽から札幌、函館、旭川、富良野など各地を何度も旅した。冬の好きな真さんが特に気に入ったのが流水の見られるオホーツク。中でも清里町は昔ながらの自然に恵まれ、世界自然遺産の知床も近い。60歳の定年を迎えたらこの場所を終の棲家にして、移住を決め、清里での物件を探していたという。何度も足を運び、交渉をかさね、やっとのこと理想の空の家を手に入れた。ところが家の設計を進める一方で、真さんの仕事はますます忙しく定年を過ぎていたという。源泉かけ流しの温泉のある理想的な一軒家は、やがて我が家のような一組限定の宿へと変更していった。

今では「北天の我が家 住留」と名付けられた宿は、まるで貸別荘。チェックインすれば、裕美子さんが食事を用意する以外は、宿泊客は誰とも会わず完全にプライベートな時間を過ごす。希望があれば、真さんが近隣の地域を案内して、ともに過ごす時間をつくって